

六花会だより 爽風

第 59 号

2020/3/6

医療法人六花会

館林記念病院

広報委員会

知って欲しい話…！「脳神経内科」について！！ ～脳・神経の疾患を内科的専門知識と技術をもって診療する診療科～

皆さまに、脳神経内科の診療内容をよりよく理解して頂くためにご紹介します。

「神経内科」という名称でしたので、いまだに心療内科や精神科と混同されることがあります。また、脳卒中や認知症などの専門的に診療する科であることが広く知られていない状況があります。

2018年より、「神経内科」から「脳神経内科」という名称に変更になりました。脳・神経の疾患を内科的専門知識と技術をもって診療する診療科であることがわかりやすくなりました。また、診療内容が世間に広く知られている「脳神経外科」の内科側のカウンターパートである、との位置づけが明確になりました。

「脳神経内科」の画像診断にMRI検査が重要な役割を担っています。脳・神経の疾患が気になる方は、ご遠慮なく、医師・スタッフまでご相談くださるようお願いいたします。

MRI(Magnetic Resonance Imaging)装置導入

2019年10月より、MRIが導入されました。当院でも、患者さま、地域の皆さまのためにMRIの検査が行えるようになりました。

MRIとは磁気共鳴画像

(Magnetic Resonance Imaging)の略称です。強い磁気と電波を利用して頭部、脊椎、関節など人体の様々な部位を任意の断面で撮像することができます。



なお、MRIは放射線科で検査していますが、X線を使用していません。

何度検査していただいても、人体に影響の少ない安全な検査です。

この装置は、ガントリーの長さが147cmと短く、体の全身がすっぽりと入ってしまうことが少ないため明るさも確保され、閉所が苦手な方でも比較的閉塞感が少なく検査が行えます。また、高い磁場均一性を確保しながら優れた高画質画像を投影できます。

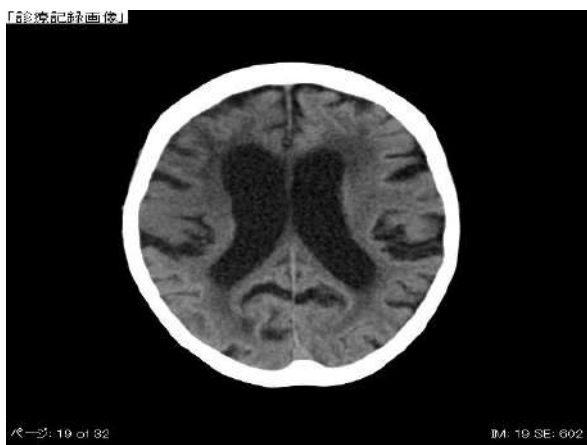
患者さまにとってもやさしいMRI装置です。



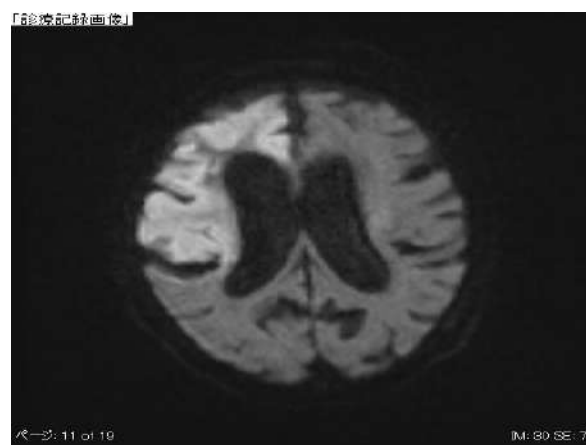
Q. CTとMRIは、何が違うの？

よく聞かれる質問です。見た目がCTもMRIもドーナツ型の装置になりますので分かりづらいと思います。放射線科で行っている検査にCT検査もあります。こちらでも任意の断面を撮像することができる検査になります。両方とも撮像された画像は基本的に輪切りの画像になります。CTとMRIは、お互いに得意とするモノがあり、その得意とする部分を活かした検査を行っています。

例を挙げると、早期の脳梗塞は、CT検査ではなかなか分かりづらいモノになります。ですが、MRIでは、早期の脳梗塞も分かることができます。



CT画像



MRI画像

この白い部分が脳梗塞になります。CTでは分かりづらいのですが、MRIではこのように撮像されます。MRIが得意とする部分を説明したいと思います。

- ・(頭部領域) 脳梗塞、脳腫瘍、認知症
- ・(躯幹領域) 肝胆膵の腫瘍、胆管膵管、腎臓、膀胱、子宮卵巣、前立腺
- ・(整形領域) 脊椎のヘルニア、靭帯損傷、半月板損傷
- ・(血管領域) 脳動脈瘤、頸動脈プラーク、閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤

CTの検査では、造影剤を使わないと分からないモノが、MRIでは分かることがあります。MRI検査でも造影剤を使った検査もありますが、当院では非造影MRI検査を積極的に行っています。

Q. すべてMRIで検査すれば良いのでは？

そう思われる方もおられるかと思います。MRIの苦手・欠点があるのです。おおきく挙げると3つあります。

1つ目は磁気を使った検査になりますので、金属が体内にある人は検査できないことがあります。

すべての人が撮れる検査ではないかもしれないという所です。

2つ目は検査時間が長いことです。およそ20~30分程度の検査になっています。そのため患者さまには、じっとして頂くことをお願いすることになります。

逆に、この点がCT検査は早く撮影できるという利点を持っていることになります。

3つ目は検査中に音がすることです。MRI装置の特性上、検査中に音が発生します。以前の装置よりは静かになっていますが、無音というわけではありません。患者さまに耳栓、ヘッドホンをして頂き、できるだけ快適な検査が行えるように努めています。

すべての患者さまが検査できるわけではないところがMRI検査にはあります。

MRI検査が出来ない患者さま

心臓ペースメーカーを装着している患者さま

脳動脈にクリップのある患者さま（クリップの種類によっては検査可能）

体内に金属物が入っている患者さま（金属の種類・部位によっては検査可能）

妊娠中もしくは妊娠の可能性のある患者さま

当院では、MRI検査を行う前に必ず、問診票にて確認を行っています。

皆さまには、お手数ですがご協力お願い致します。

今後、脳ドックをはじめ、各種ドックの案内も行えるように準備していますのでご期待ください。

地域の皆さまのために、Only Oneの検査が提供できるよう努めてまいります。

.....

新型コロナウイルス感染症防止へのご協力、ありがとうございます！

現在、新型コロナウイルス感染症防止の為、皆様には多大なるご不便をおかけしております。

今後も安心して受診、入院、面会が出来るよう職員一同、努めてまいります。よろしくお願い致します。